

あいさい通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山
愛西市森川町井桁西 27 愛西市観光協会内
電話：0567-55-9993

城のような石垣 がいっぱい

写真：城のような石垣が組まれた水屋（石田町）



11月、小春日和の一日は、町並み散策、ウォーキングに楽しいさわやかな季節です。中日新聞県内版には、2014年7月2日から「阿部繁弘氏の『街道を行く・佐屋街道と周辺の道』」と題して、愛西市立田地区から佐屋地区への風景がボールペン画で連載されています。

この内、9月17日付の「水屋」（2頁参照）は輪中地帯である当地の代表的な風景です。愛知・岐阜・三重県の県境となる木曾三川周辺地域では見慣れている風景ですが、海拔0m地帯の地において、繰り返し攻めてくる敵軍ならぬ恐ろしい水害から身を守るために、お城のような石垣を組み、財産を守った先人達の知恵でした。お城のように石垣が組まれた風景は、ここ十年でどんどんと減ってきていますが、赤目町など古い家が多い地区には、まだまだ高い石垣の上に立っている水屋や、村の鎮守である神社もあります。

一方、今回の連載名である「佐屋街道」は、愛西市佐屋町に由来する街道で、江戸時代に江戸幕府が管理した、いわば、現在の国道に相当する主要街道で、その一部が残っています。江戸時代初頭、天下統一後に江戸（現在の東京）に幕府を開いた徳川家康は、東海道などの街道を整備しました。当地の東海道は、熱田と桑名とを結ぶ航路「七里の渡し」となっていました。海路だったために、悪天候時に危険を伴ったり、船酔いをする旅人に嫌われたりしていました。そのため、陸路が佐屋路として1634（寛永11）年に整備されました。佐屋路は熱田から佐屋まで陸路で続き、佐屋から桑名へは木曾川の支流であった佐屋川などの川を通る航路となっていました。江戸時代に木曾川下流域は新田として開発され、現在の佐屋は内陸となってしまう、周辺に広がる広大な干潟だった0m地帯には、水田や蓮根田が広がり、また、街道沿道の村々も都会化が進み当時の面影はありません。が、この機会にこれらの輪中地帯の風景を楽しみながら、当地方を観光して下さい。

愛西市観光協会では、「阿部繁弘氏のボールペン画『街道を行く・佐屋街道と周辺の道』」掲載記念して原画展とウォーキング大会を開催します。

< 2頁に続く >

ボールペン画 原画展

愛西市観光協会では、中日新聞県内版に掲載されている「ボールペン画『街道を行く・佐屋街道と周辺の道』」で使われたボールペンで描かれた原画を、津島市の市民団体「天王文化塾」にご協力いただき、原作者の阿部繁弘氏からお借りして、下記日程で展示会を開催します。



画：阿部繁弘氏の水屋（石田町）

日時：11月15日（土）～24日（月・祝日）
10時～15時

場所：安泉寺（愛西市三和町）

＜立田大橋東交差点から北へ2km＞

入場：無料 主催：愛西市観光協会

後援：愛西市、津島市、中日新聞社

＜予定している阿部繁弘氏のボールペン画＞

- ①船頭平閘門、②デレイケ像、③木曾川文庫、
④蓮根、⑤陽南寺、⑥ミニトマト、⑦水屋、⑧和太鼓の店、⑨佐屋駅

愛知の西端を歩く

さらに、原画が描かれた場所を巡ろうという方のために、期間中にウォーキング日を設定し、受付場所でウォーキングマップを配布します。愛知・岐阜・三重県境は長良川にあり、船頭平閘門がある福原地区は愛知県最西端に位置します。ウォーキングコース上には、輪中地帯の風景が広がっています。この機会に散策下さい。



写真：船頭平閘門

月日：11月23日（日）

（受付場所でマップを配布し自由に歩いていただきます。各所には道標を設置します。）

受付場所と時間：立田体育館と佐屋駅、8時～10時

コース：

A：『街道を行く』立田地区を効率的に巡るコース（18km）

立田体育館—道の駅—立田大橋東—船頭平(往復)—立田大橋東—陽南寺—立田体育館

B：『街道を行く』立田地区を佐屋駅から津島駅へ歩くコース（20km）

佐屋駅—道の駅—立田大橋東—船頭平(往復)—立田大橋東—陽南寺

—立田体育館—堀田太鼓店—天王川公園—津島駅

なお、船頭平閘門へは、愛西市観光協会が運営している木曾川観光船を利用すると便利です。観光船は土曜・日曜日に定期便があり、船で木曾川の葛木港から船頭平閘門を通過して船頭平までを往復し、船頭平でデレイケ像や木曾川文庫周辺を散策できます。ただし、観光船は有料予約制となっておりますので、事前に観光協会（電話：0567-55-9993）まで問い合わせ下さい。

愛西市の文化イベントへ行こう！

～八開郷土資料室 特別展「横井也有と藤ヶ瀬」～

11月4日（火）から愛西市八開郷土資料室で特別展「横井也有と藤ヶ瀬」が開催されます。今回は開催に先立ち、愛西市教育委員会の石田泰弘氏を取材しました。

—横井也有とはどんな方なのでしょうか？

石田：也有は藤ヶ瀬に在所をもつ藤ヶ瀬横井家の6代目で尾張藩士として要職を歴任しました。俳句に優れ、俳文芸の世界では芭蕉と並ぶ双璧に位置づけられています。

—そのような文化人が藤ヶ瀬にいたんですね。

石田：そうですね、也有のことを地元の方に広く知っていただきたいという思いから今回の展示を企画しました。

—展示品にはどのようなものがありますか？

石田：軸装や也有著の書籍を中心に、これまで明らかになっていなかった新資料を多数展示します。市指定文化財「横井也有俳句軸装」はなかなか見られない一品です。貴重な作品を身近に見ることができる、なかなか稀な機会かと思えます。

—最後に一言お願いします。

石田：今回は展示に合わせてイベントも開催します。歴史講演会やウォーキング企画など、いろいろな形でこの特別展を味わっていただければ幸いです。どうぞご参加ください。



横井也有の墓（藤ヶ瀬町西音寺）

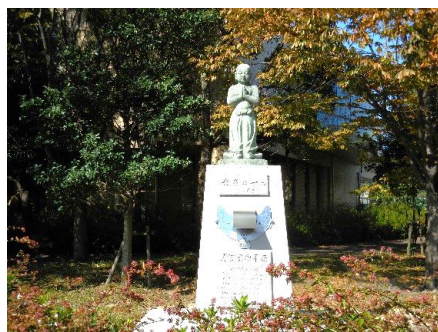
鶉多須町のお薬師さま

愛西市鶉多須町には、川の上流から流れてきたと伝わる**お薬師さま**が祀られており、上中山地区のみなさんが当番で世話をされています。毎年10月、体育の日の三連休に命日として法要があります。微笑を浮かべたこの薬師像は円空作とされ愛西市の指定文化財です。円空は、江戸時代初期の1632（寛永9）年に現在の岐阜県羽島市に生まれ、1695（元禄8）年に現岐阜県関市の弥勒寺で亡くなったとされる僧で、生涯に10万体の仏像を彫ったとされ、全国に作品がありますが、昔ながらの民俗信仰で祀られているのは貴重です。



お薬師さまの御開帳

杉野図書館 跡地 の 平和祈念の碑



中央図書館南公園にある碑

内佐屋町出身の**杉野繁一**（1887～1978年）氏は、東京都にある「杉野学園」の創立者です。氏は1965年に杉野学園創立40周年を記念し、旧佐屋町図書館建設のために多額の寄付をされました。愛西市の防災倉庫建設に伴い氏の功績を伝える遺構が一つ消えましたが、図書館跡地にあった氏が寄贈した平和祈念の碑は、愛西市中央図書館南の小公園に移設されました。中央図書館2階には氏の功績を伝える資料室があります。

愛西市観光協会が関係する 11・12月のイベント

4日～ 八開郷土資料室 特別展「横井也有と藤ヶ瀬」(教育委員会主催)

～12月21日 横井也有展関連ウォーキング(11月15日)

関連講演会(12月13日)

15日 ねんぐ村(法人会主催)

15～24日 『街道を行く』原画展(安泉寺)

『街道を行く』ウォーキング(23日)

22日 ウルト라마ラソン大会(中日新聞社他主催)

29日 クローバーTV感謝祭(七宝アートヴィレッジ)



あいさいさん

V G 11月定例会の予定

日時：11月16日(日)9時～

集合場所：安泉寺(三和町)

内容：定例会

あいさいボランティアガイドの会 10月定例会 議事録

1) 会議(10月19日9～10時 於：永和公民館 23人出席)

①愛西市観光協会が関係する11月のイベント、ウォーキング事業などへのボランティアガイドの協力参加者を確認しました。

②その他

- ・あいさいさんアイデアコンテストの結果発表・表彰式の日程について案内しました。
- ・観光協会で預かっていた尾張津島天王祭に参加する市江車の矛持ちに関する資料を配布しました。
- ・また、愛西市観光協会として、知られていない愛西市の名所・旧跡、ならびに、祭礼について、各地区の総代さんに対して、アンケート実施したことを紹介しました。

2) 永和地区視察

各地区の総代さんに対するアンケートの内、特に大井町の総代・滝川様からは、大井町に関する膨大な貴重な資料をいただきました。ご協力ありがとうございました。今回の定例会では、その資料に基づき、大井神社、永和台にある元大井神社の**根上がり松**などを見学し、当日開催されていた**永和台まつり**にも参加しました。

祭りには大勢の町民が参加し、子供獅子、そして、神輿と大きな太鼓が永和台の町内を回り、大きな太鼓が大きな音を響かせていました。また、大井神社への散策の途中で、大井町に

ある旧永和村道路原標(旧役場跡)、永和温泉、一般の人も入浴できる禊ぎ湯などを発見しました。



根上がり松



永和台まつり